

## 民具マンスリー

〔編集担当〕 榎村賢二 佐野賢治 鈴木通大 浜野達也 加藤友子

〔編集協力〕 大野一郎 刈田 均 森本仙介 安室 知

### 持続は力

——100 巻を目指して——

佐野 賢治

「民具マンスリー」は2018年度4月から51巻目に入った。月ごとに半世紀の歴史を経て、新たな一歩、それは100巻を目指すことになる。1968年の創刊から編集に携わった故・河岡武春が、編集後記に当たる道聴余説で、はがき1枚の短信でもよいからと、同志に民具研究の必要性を淡々と説いた時代が偲ばれる。創刊50年を迎えることができたのは、先輩編集子の尽力のたまものであり、襁を次代につながなくてはと思いを新たにしている。

今期の、51巻1号は民具研究の先達、下野敏見、川田順造両氏の論考から始まり、2019年3月の51巻12号は、第22回常民文化研究講座・国際研究フォーラム「アジア民具研究の可能性—民具体系と生活構造の比較から—」の参加記で終わっている。

毎号の内容は日本常民文化研究所 Web サイトの目次一覧、及び「神奈川大学デジタルアーカイブ」の民具マンスリー論文一覧検索で見ることができるが、寄稿による構成だけではなく、編集部による特集を組み、「絵馬」(51巻2号)、「筆記具」(51巻4号)、「タカラガイ」(51巻6・7合併号)をテーマとした。また、企画「シリーズ 民具と出会う」ではインタビューを行い、五十嵐稔(51巻3号)、関秀志(51巻9号)、小島瓊禮(51巻12号)の記事が掲載されている。

中でも、特集「暮らしの中のタカラガイ—先史時代から現代まで」は、木下尚子熊本大学教授の奔走により考古学と民具研究が連携し充実したものとなった。

編集部では、常民文化研究講座「民具を語る」の企画も進めており、2018年度は遠藤きよ子氏



写真1 下野氏が50余年にわたり収集した日本および韓国の草履(種子島開発総合センター鉄砲館所蔵)(下野敏見「鹿児島島の草履の民具学—各種草履を比較しながら—」51巻1号より)

(刺し子作家)による「原方刺し子の世界—ひと針に思いをこめて—」(2018年7月23日)を開催した。また、衣料、布と染織方面の話に関係者から聞いており、その企画はいずれ誌面に登場することになる。

「民具マンスリー」はその前身、「アチック・マンスリー」を継いで、研究者相互の連絡、提携、情報交換などで交流の場としての役割を果たし、現在でもその基本姿勢は変わっていない。

みなさまのご意見、投稿が誌面に反映される。50周年から一步を踏み出したこの機会に改めて会員みなさまの支援をお願いする次第である。



写真2 熊野出漁図 (佐田神社所蔵)  
(磯本宏紀「他地域への出漁漁民による奉納絵馬—徳島県の事例—」51巻2号より)

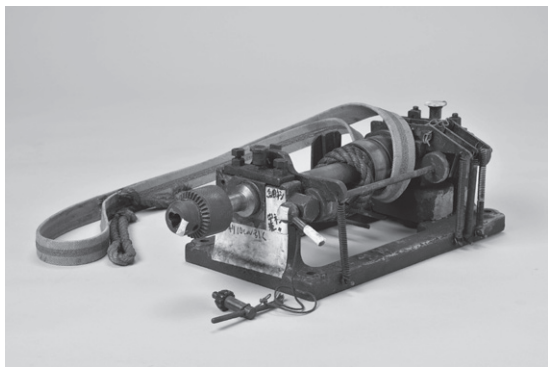


写真3 万年筆製造に用いられたろくろ  
(国立歴史民俗博物館所蔵)  
(小池淳一「結節点としての万年筆—筆記具の民俗学へむけて—」51巻4号より)



写真4 タカラガイ加工品の装着イメージ  
(忍澤成視「縄文時代のタカラガイ加工品—その特異な扱いについて—」51巻6・7号合併号より)

## ■ 2018年度の活動

### 【『民具マンスリー』編集のための取材】

- 小島瓊禮氏へ「シリーズ 民具と出会う」インタビュー 2018年5月7日 鈴木通大・浜野達也
- 「西中国山地民具を守る会 50周年記念行事」参加 2018年11月11日 波佐公民館(島根県浜田市) 樫村賢二
- 隅田正三氏へ「シリーズ 民具と出会う」インタビュー及び浜田市金城資料館紹介記事取材 2018年12月15日 樫村賢二

### 【『民具マンスリー』編集会議日程】

#### 日 程 (通算)

第1回(第369回)	2018年4月16日	第4回(第372回)	2018年7月23日	第7回(第375回)	2018年12月21日
第2回(第370回)	2018年5月21日	第5回(第373回)	2018年9月28日	第8回(第376回)	2019年1月28日
第3回(第371回)	2018年6月18日	第6回(第374回)	2018年11月2日	第9回(第377回)	2019年2月18日